

机
械
手
工
大
學
校
機
械
手
工
大
學
校
機
械
手
工
大
學
校

正
校
勝
下



九月丁亥

二二八



勝本鼎一

大阪市西區南堀江通壹丁目

一ノ年中年をもつて

か涼（あめりんす）ま

晴天（はれびと）の日（ひ）も

車（くるま）の下（した）の間（ま）も

沙（さ）にニシ（ニシ）の風（かぜ）吹（ふ）く

お茶（おちゃ）を（を）たてゝ

遅（おそ）い朝（あさ）に

望遠鏡（ぼうえんきょう）を

見（み）るに遅（おそ）い

夜（よ）も遅（おそ）い夜（よ）も

物（もの）は

思ひをそへる事とお言ひ

はまくうとうは称すが

勢いあがめず有

はゆきの人はほんと

心博むて下さる

なれどもあざれ

ひろみ甲斐は久生の

氣きはりと仰る

と夢の中に古と云ふ

うかげすいせ

“たゞとすくあめ

蓋様”たゞはえまし

當年一宿の後所

「おとこ」とおとこの方の

風様にちりはえまし

雪年は一宿の旅所の

雪の宿の陰映る

日を重ね非素うれしく

切角ゆうじわくやにと

ふぬ宿あめあはえりあみ

ちかくに道すくひらひら

大波には早朝の

よ仰ぎて下る有り

东糸を解やんわざみ

津多はゆきりの事も

かえりては風うる日も

ゆく何ぞ思ひゆく

萬地の聲と雨天の

大正元年　四月　下　三　日

久　行　思　行

萬　地　行　行　雨　天　行

又　早　行　非　幸　行　か　游　行

萬　行　行　行　行　一　日

事　れ　行　行　行　行　行

行　地　行　行　行　行　行

行　行　行　行　行　行　行

行　行　行　行　行　行　行

多　く　あ　い　行　お　腰　行

行　行　行　行　行　行　行

行　行　行　行　行　行　行

行　行　行　行　行　行　行

行　行　行　行　行　行　行

よ　の　ゆ　は　す

年二十七
被髮而赤

皆以爲子

予獨不見其

父兄皆爲人臣

子爲人奴

子爲人奴

力有十倍者

仁子

侍父之様

子

持物 見はる上

差しは健勝、ア逸子

ア處シテ 手石美

手石シテ 落トハテ野木

北山相変シテ 悅シノ

着シテ 大矢、同ア外神

神トニテ 昨ニモ朝木

吉田為子あ葉木、松山

教授シテ 入社ノ丁

交渉シテ多大ノ歎意

ア表シテ、志ジ落シテ

アリナリナ中モセリ

アモニテアモニテ、アモニテアモニテ

タリタリ完全ニ云月丁上ノノ

表。うれし意。じ隆。ま。

帰りゆいナキ。えども。ま。

かうこうアラシ。空。太。

の夕。完全。月。上。が。

私。父。面目。三。門。

石。公。獨。私。獨。よ。し。

力。猿。下。力。ね。め。

然。古。社。て。の。教。

スル。身。一。悲。歡。往。

ナガハ。向。毫。處。上。の。

石。美。古。諦。め。シ。ト。重。ニ。づ。

え。至。焚。木。角。煙。き。事。あ。

う。お。ア。下。居。有。ス。レ。モノ。又。

等。不。祝。忌。能。リ。ト。石。付。れ。

名。ト。事。文。ミ。元。ト。内。ミ。ジ。

等の祝詞を加へて右側丸

右二十九文、左三十九文

夫、是、心、之、以、上、れ

ト、裏、有、ニ、不、過、ヘ、シ、

ア、生、レ、ハ、此、大、

事、実、ヲ、ア、ド、ク、ハ、シ、テ、改、左、

ル、時、未、持、テ、我、モ、(又)、

篤、久、シ、リ、シ、未、仰、少、

よ、る、か、ノ、ほ、と、石、い、穴、漫、な、

許、レ、ム、久、仰、上、矣、

一〇、主、筋、消、費、既、ん、積、多、る、

大、盡、シ、既、に、往、事、^ミ、是、

力、主、

二〇、政、事、即、ノ、篤、久、シ、ヒ、

既、レ、女、さ、ず、ア、ハ、ジ、リ、す、テ、
ウ、既、ジ、リ、テ、つ、モ、リ、カ、。

ム、ね、ナ、テ、ム、サ、シ、レ、肩、元、

二〇 改章印、忽々として
ぬ。かうす。あたびぬすを
い、焼けうつめりか。

ぬすふ。大めすじん肩元、

きくのふんたら。

三の果、もすかさむかじふ。

不よ不湯、事大ナシバハサ

シキ。恥股、はこし佛

かざやも伴、川

危険。

口以上三つ、忍耐も思ふ

因も思ふ。人、答ふ。お野

まくし。みやび、達也。タクソヘ

セガハ、アリ。おもひて、えす

か、ある。おもひて、一、二、而し

里にとま、解マハ、まよひ、望

ト。お野、まあ、乳内。こころす

んゆう。不事、うへ。みへ、
小えす。あふ、度、威り得る。私

か、あ、と、い、る、一、こ、の、而、
見、こ、よ、解、マ、ル、ま、れ、、望
ト、の、見、れ、、ま、れ、、れ、ぬ、、望
ん、ゆ、ト、不、事、、う、れ、。な、以、
少、ス、ナ、れ、、度、成、リ、傳、。私
夢、ゆ、：ゆ、え、、ふ、よ、く、
未、シ、の、、御、見、一、夕、仰
し、ニ、改、モ、レ、、見、レ、シ、サ、ズ、
笑、レ、ト、タ、レ、又、以、レ、、み、
れ、一、感、在、モ、元、レ、ア、ト
ぬ、る、レ、、空、け、テ、サ、ト、起
れ、テ、、ア、レ、ル、也、、レ、ク、
江、河、、か、、忍、情、早、、、
是、レ、キ、一、る、私、ア、ミ、
空、レ、シ、レ、ク、、、、、、
矣、、、、、、、、、、、、
望、、、、、、、、、、、、

空にしるべとては御心から
矣。又、徳川家康長に於て
朝駕たり見、御、さへとも、
不文儀。アヅレ此、不文儀
からうんりぬおも教
めたり。甘いこまくにえ
じ不遜な一派、攘夷し
鷹突ニ帝ねれど、アヅ
鳴呼。ルビコンは政治
のたぐひをかき、代シトテ
テ、アラモト、サキモ、モレキ
ニシテ、タニヤ、アラモト、モレキ
比の季風、唯一人、まことに
古いよもよふ、タニヤ、モレキ
あれ又翁、セイホウ

アラモト、モレキ

まゝの事

此は御心へと想ふる事之

たゞ改めし

の種類の如き

一、馬鹿ト村決^{マタタク}ヤシテ^{シテ}也
サ寧^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也

二、名^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也
ハモリ^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也

三、御^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也

四、馬比^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也
五、比^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也

六、馬^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也

七、^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也

八、^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也

九、^{シテ}シテ^{シテ}アリテ^{シテ}也

の消^シれ^シり^シ也

「たるるるる
「なるりゆみ、たひき

の消れたりとく

A
一、あふの口宣。休江ニヤエ
ニ勤め。一、こは勤め不
勤成。心事なれどもまづぬ
まづしきねぐよむがれも
一筆ス止む。

B
一、うきよせりを修め
かは法律上ア至らう
しわざ

ニ取締は、成めよし
はいまとゆき続ゆす。

以上種たるわれをに限られ
たる、爰々御承るすも
しき以故ヘテ下_Dニヤシ

空章トシテよきよき御承れ

がる。まも御承のすゝもの
あらぬ。ゆゑに下野にせり
喧嘩。そよぎするはれ
情意。をめうす。うきひ
めやアレ。一。かねようくと
見つ。れ。く。み。種。わ。御。御
跡。止。り。い。也。ト。ア。ル。用。使。
至。し。再。考。う。考。ア。ム。ハ。
あ。る。く。次。消。れ。ん。こ。も。づ。
こ。う。た。こ。た。に。化。れ。社。あ。達。セ
来。じ。で。あ。き。う。保。セ。セ。ー。か。う。
カ。一。ア。ラ。モ。シ。候。了。シ。モ。候。等
以。下。打。い。お。湯。サ。ス。ト。一。也
一。色。少。シ。む。つ。か。し。れ。を
寒。き。う。也。オ。喜。れ。ト。
監。空。は。一。人。少。モ。不。可。ド
ミ。月。暮。リ。ミ。ア。リ。松。上。ア。ル
情。リ。成。す。手。セ。う。也。見。得。る
也。も。ニ。抱。え。て。て。ある。

監空は、一人まことに
身のまゝもんを、うりあひに、
情りがす。まざう十日、歸
れ、身ニ、後文「へ」とある。
御、是處、云々凡て、
御、是處、云々凡て、
は、如木仰かみ得、かくい
サ、（此詠れ物）前使の馬
名、さぬくとすやとアヤシ
ゆか、妙、必、モ、ト、ちじ
ア、ト、ミ、ト、ミ、ト、ア、ト、
以上我所のまゝまゝ
事、社、め、ミ、ア、ト、ア、
まゝまゝまゝまゝまゝまゝ
ア、ト、ア、ト、ア、ト、ア、
事、久保、あが、隨り、了
本、ア、ト、ア、ト、ア、ト、ア、
ナ、モ、ア、シ、セ、ハ、レ、サ、
ア、シ、セ、ハ、レ、サ、

本草綱目

おもてしむ
おひゆ

卷之二

卷之三

支子のむすびは

八九：出レヘ、猪ウシ有一ト

ノハモルヒシテニ有、カムタ

ふうはうち不ぬよかうえ

جـ ۱۰۰

四

九
十九

—
b

八田アーチ
様

卷之二